

# 天馬の記

大耕部岡

32

ある日突然に老いが襲う。わたしが老いを実感したのは、列車に飛び乗ることを諦めた日であった。階段の途中から、ドアが閉まって走り去る列車を見送った日である。「次を待とう」。

その日までは、それこそ「天馬」のように駆け上がって、閉まりかけのドアを開いても飛び乗ったものである。次を待つのが老いである。

もっとも、わが松浦駅では列

車を乗り越して次を待つと、次

## 1両編成と健さん

の列車は2時間はやって来ない。松浦鉄道は1両のディーゼルカーである。やはり、高倉健さんの北海道を舞台にした映画にも1両のディーゼルカーが活躍していた。

亡くし、高校で野球をしている一人息子がいる。ちょうど、炭

鉱の争議の真っ最中である。町

にはこんなことはよくある。ザ

わたしは高倉健さんと映画を

そんな物語であった。

わたしが書いたテレビドラマ

「精霊流し」は1985(昭和60)年

ご一緒する機会に一度だけ恵ま

ただこれは、高倉健さんの日

「精霊流し」でも、ヒロインの

米の野球を題材にした映画がヒ

旅である。プロ野球で挫折し

た主人公が、大牟田の高校野球

のコーチになる。主人公が下宿

した木賃宿を切り盛りする女性

がヒロインである。女性は夫を

おかべ・こうたい 1979年に

「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、

89年に「一也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。



おかべ・こうたい

1979年に

「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、

89年に「一也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)